



北アフリカ地域ニュース

エジプト：ファタハとハマスの会談と米国の動き

(1月26日付け現地各紙)

- 26日、ハマスが2007年6月にガザを制圧して以降、ファタハとハマス指導者による初の会談がカイロで行われた。同会談は、ソリマン国家情報庁(GIS)長官による停戦強化及び休戦協定合意に向けた協議を行うことを目的としたパレスチナ諸派と会談の機会をとらえて実施された。
- アッザーム・アハマド PLC ファタハ会派会長は、記者会見において、「ファタハ指導者は、パレスチナ国民和解及び対話の再開のためにハマス代表団とカイロで会談を行った。一旦ダマスカスへ戻り、同政治局長の回答を待って再びカイロを訪問する予定である。エジプト政府による取組は、包括的なパレスチナ人による対話を再開させようとするものである」と述べた。
- パレスチナ解放民主戦線(DFLP) 声明
DFLPは、声明において、26日のソリマンGIS長官との会談において、2月5日までのイスラエルとの停戦、2月22日に開催予定のパレスチナ諸派による会合について協議したと述べた。
声明において
DFLPは、ファタハとハマス間の組織的中傷を中止するように求めた。
DFLPは、ガザの復興に関してドナー国や国際機関によるレバノン復興に関する成功事例にならうことの重要性を強調した。
- ミッチェル米中東和平担当特使他のエジプト訪問
エジプト外務省高官は、和平プロセスを前進させるための地域歴訪の一環として、新たに任命されたミッチェル米中東和平担当特使が27日にカイロを訪問する予定であると述べた。同高官は、2月にカイロで開催予定のムバラク大統領の呼びかけによるガザの復興に関するドナー会合に向けた準備が進められていると述べた。